

令和4年8月5日	
所 属	情報指令課
所属長	大木 康裕
電 話	06-6481-3968

令和4年上半期火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和4年上半期中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和4年1月1日（土）～令和4年6月30日（木）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和4年上半期火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり

以 上

令和4年上半期火災概要

火災の発生状況

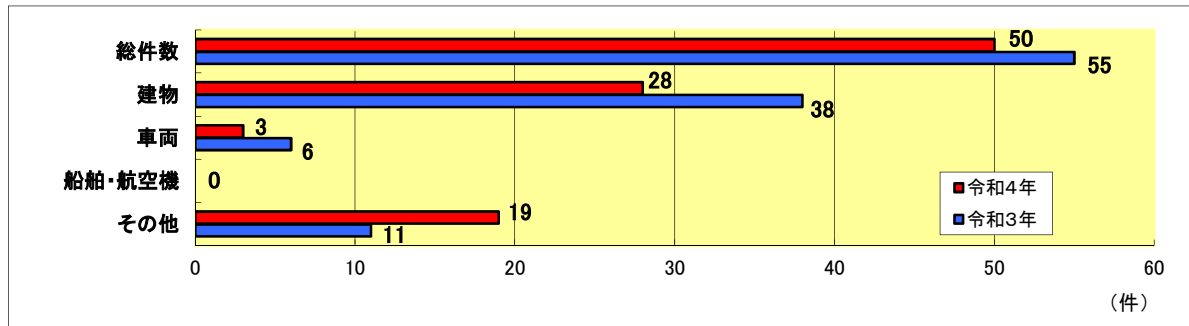
- 令和4年上半期の火災件数は50件で、焼損床面積は578㎡、損害額は5,407万9千円、死者1名、負傷者9名となりました。

令和4年	
件数	50件
焼損床面積	578㎡
損害額	5,407万9千円
死者	1名
負傷者	9名

令和3年	
件数	55件
焼損床面積	1,121㎡
損害額	3,410万6千円
死者	3名
負傷者	9名

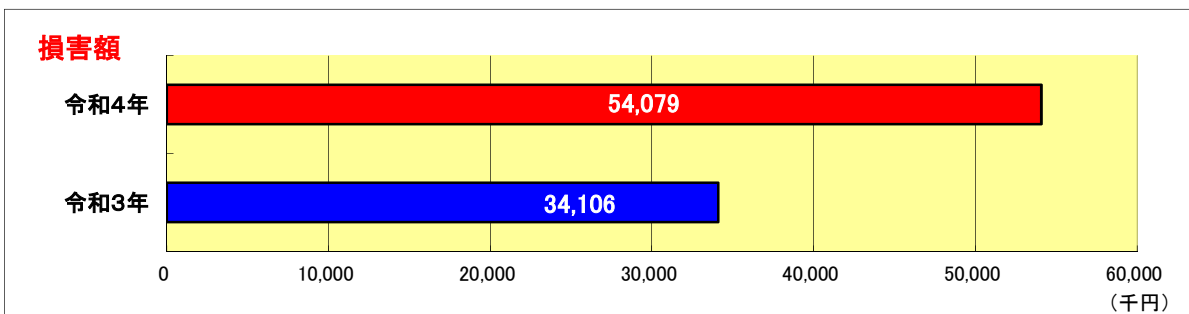
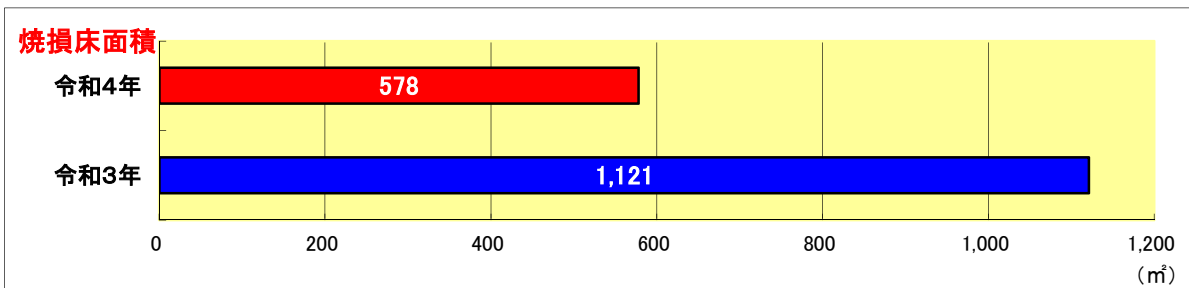
出火件数

- 出火件数は、前年の55件から5件減少し、50件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が28件で10件減少、「車両火災」が3件で3件減少、船舶火災、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が19件で8件増加しました。



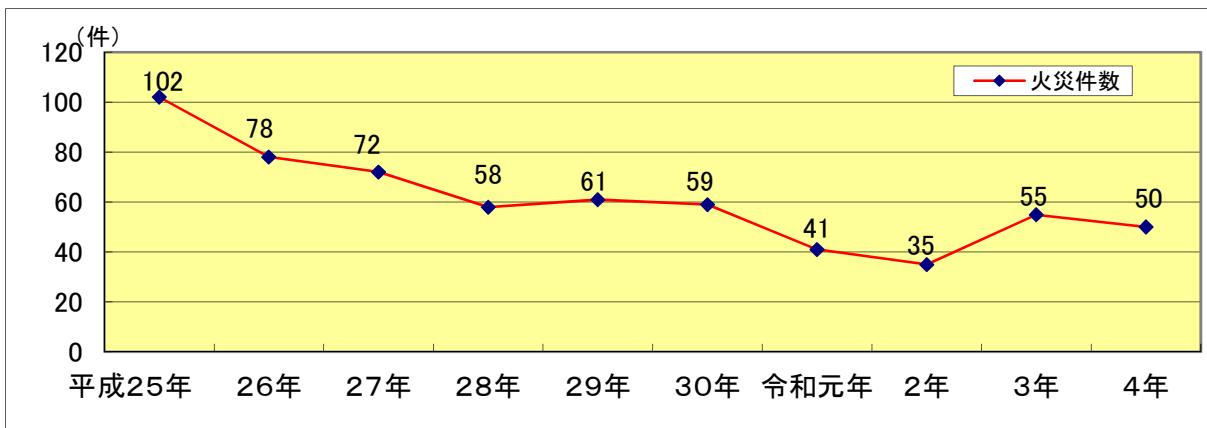
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,121㎡から543㎡減少の578㎡、損害額は前年の3,410万6千円から1,997万3千円増加の5,407万9千円となりました。



火災件数の推移

- 令和4年は50件で、前年より5件の減少となりました。
- 過去10年間の平均は61.1件です。

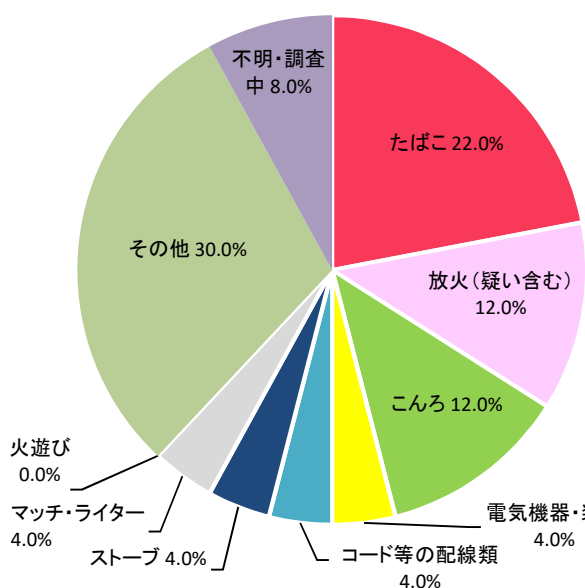


出火原因

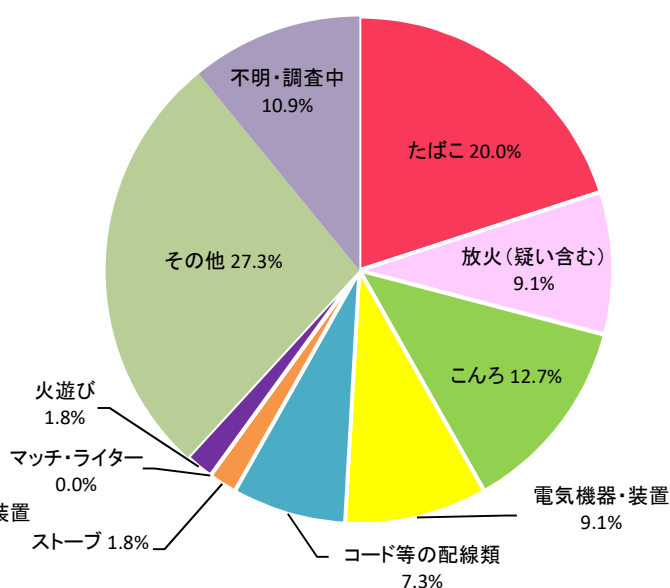
- 主な出火原因をみると、1位は「たばこ」の11件で前年と同件数となりました。2位は「放火（疑い含む）」と「こんろ」が同数の6件で、「放火（疑い含む）」は1件の増加、「こんろ」は1件の減少となりました。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「たばこ」、「放火（疑い含む）」、「こんろ」となり、合計件数は23件で、割合は46.0%となりました。

区分	令和4年	令和3年
たばこ	11件	11件
放火(疑い含む)	6件	5件
こんろ	6件	7件
電気機器・装置	2件	5件
コード等の配線類	2件	4件
ストーブ	2件	1件
マッチ・ライター	2件	0件
火遊び	0件	1件
その他	15件	15件
不明・調査中	4件	6件
合計	50件	55件

令和4年



令和3年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は17件で、前年の14件から3件の増加となっています。
- 令和4年の出火件数50件に占める住宅火災の割合は、34.0%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「こんろ」、「たばこ」となり、その原因が住宅火災全体を占める割合は52.9%となりました。

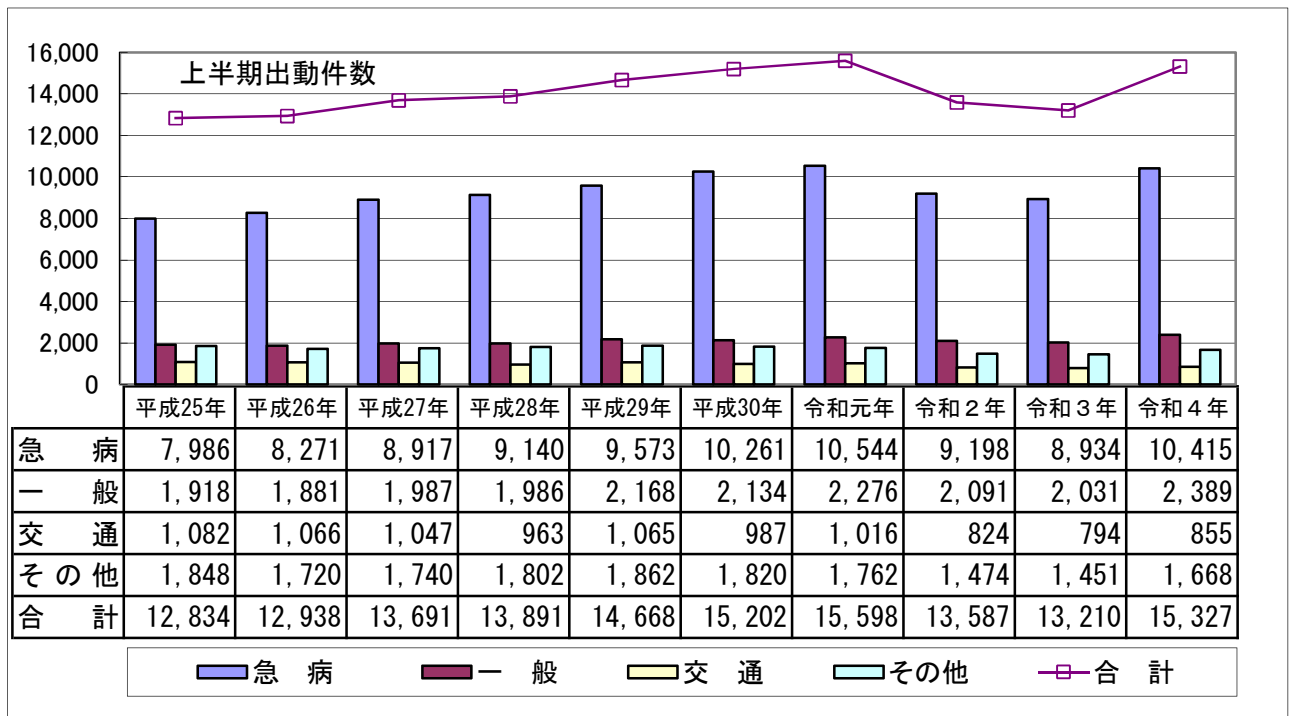
建物別	年別	計	たばこ	放火（疑い含む）	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明・調査中
一般住宅	令和4年	8	2		2		1	1	1	1		
	令和3年	5	1	1					1	1		1
併用住宅	令和4年											
	令和3年											
共同住宅	令和4年	9	2	1	3		1	1				1
	令和3年	9	3		4						1	1
合計	令和4年	17	4	1	5		2	2	1	1		1
	令和3年	14	4	1	4				1	1	1	2

令和4年上半期救急概要

- 令和4年上半期（1月～6月）における救急出動件数は、15,327件（前年13,210件）で2,117件（16.0%）の増加となり、搬送人員は、12,462人（前年10,903人）で1,559人（14.3%）の増加となっています。1日平均は85件（前年73件）であり、約17分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

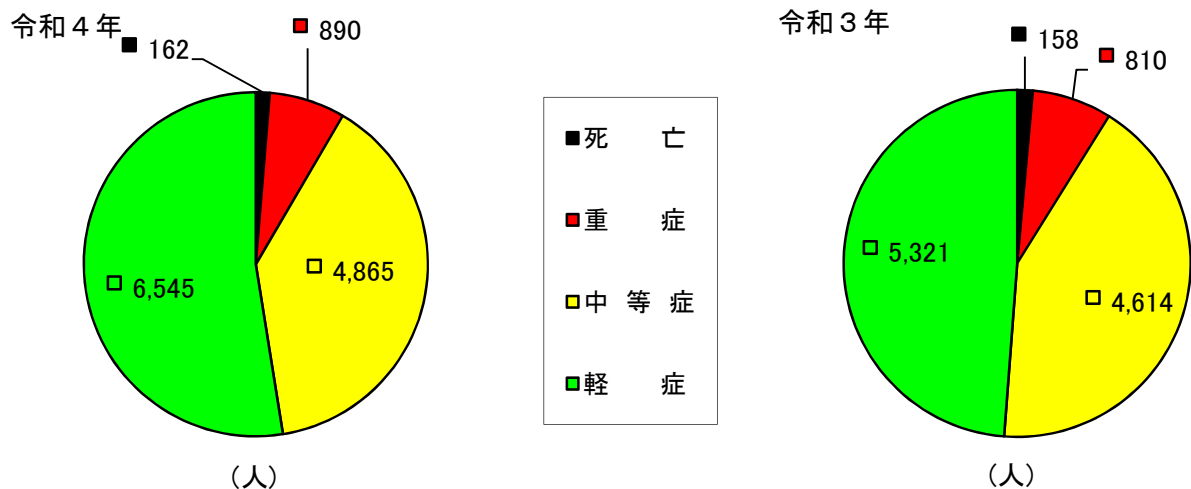
過去10年間の上半期救急出動件数の推移

- 過去10年間の上半期救急出動件数をみると、令和元年まで増加していたが、令和2年・令和3年に減少へ転じ、令和4年は2,117件の増加となりました。



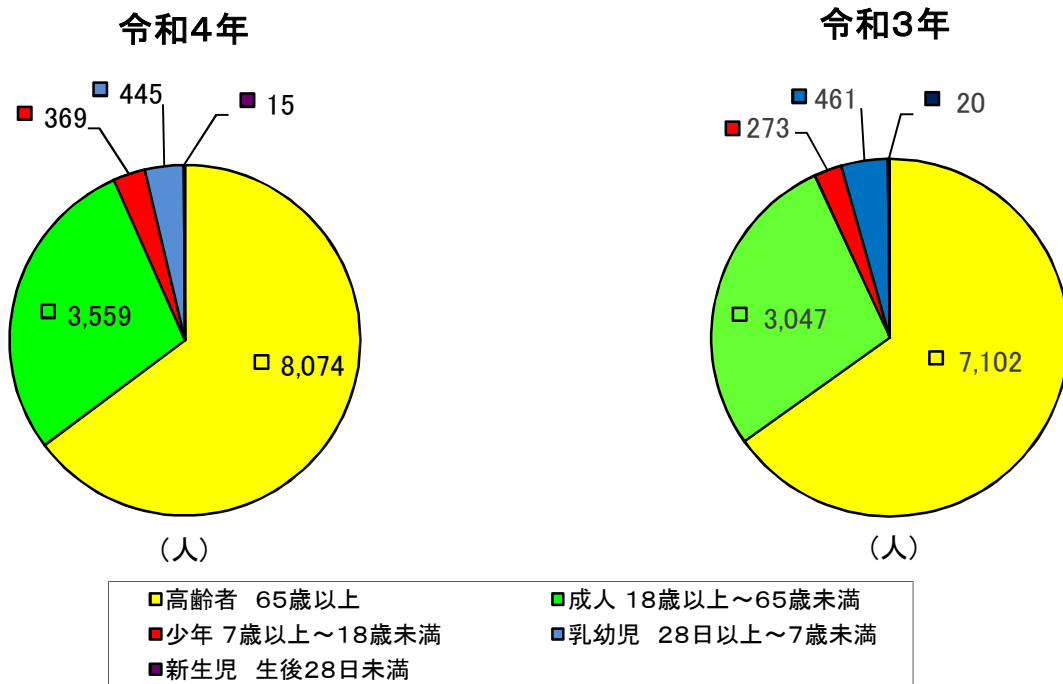
程度別

- 程度別にみると、軽症6,545人（前年5,321人）で1,224人（23.0%）の増加、中等症4,865人（前年4,614人）で251人（5.4%）の増加、重症890人（前年810人）で80人（9.9%）の増加、死亡162人（前年158人）で4人（2.5%）の増加となっています。



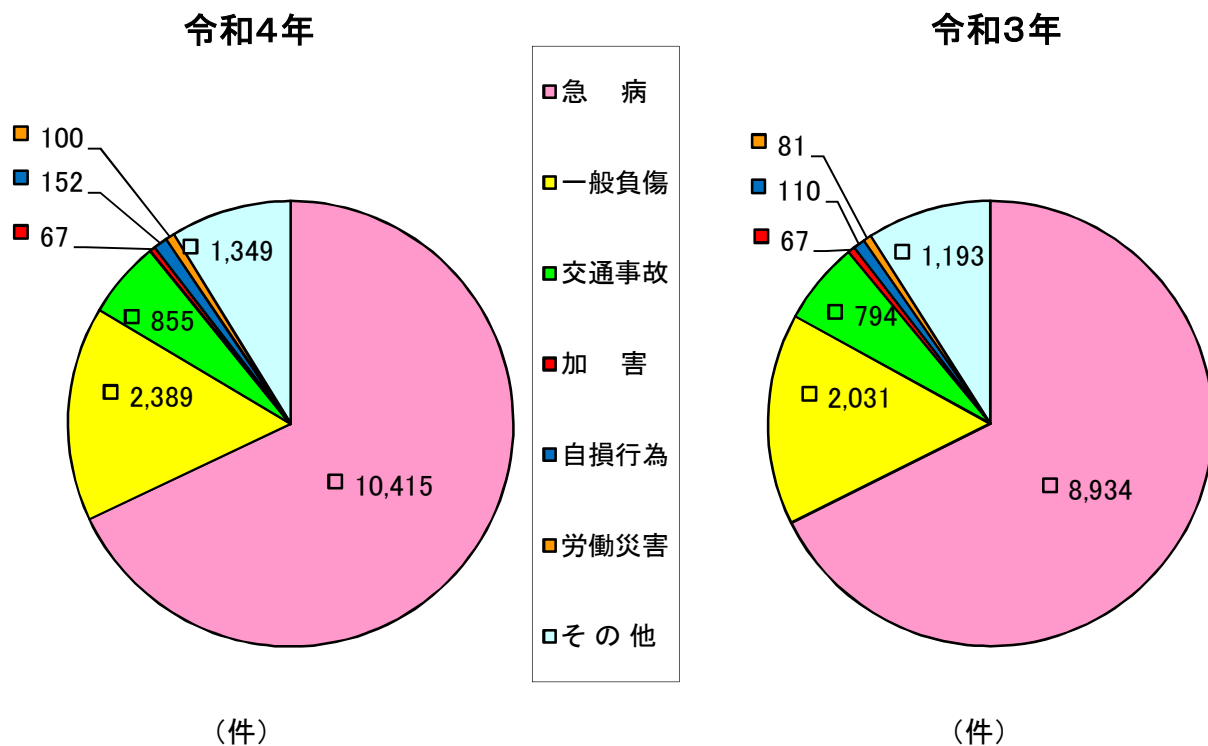
年齢区分別

● 年齢区分別にみると、高齢者が8,074人で最も多く、全体の64.8%を占め、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順となっています。



事故別

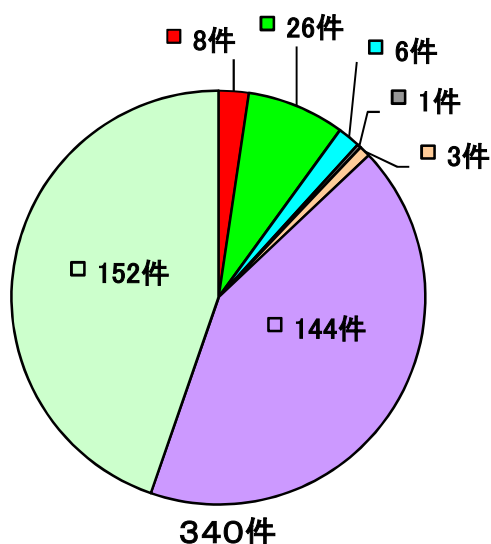
● 事故別にみると、急病が最も多く全体の68.0%を占め、以下、一般負傷、交通事故の順となっています。



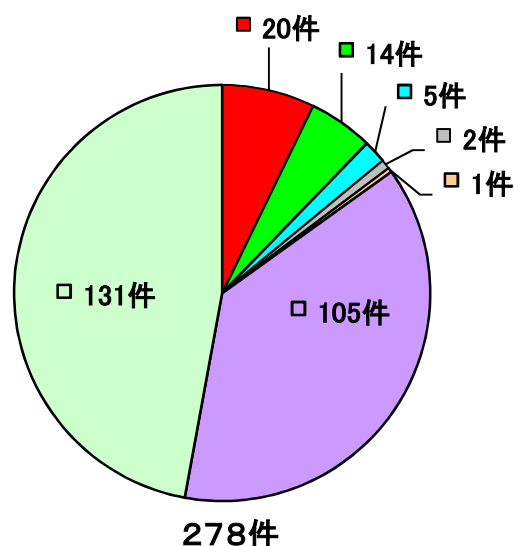
令和4年上半期救助概要

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和4年上半期の出動件数は340件（前年278件）で62件（22.3%）増加し、出動隊数は591隊（前年491隊）で100隊（20.4%）の増加となっており、事故種別ごとにみると、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数340件のうち201件（59.1%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

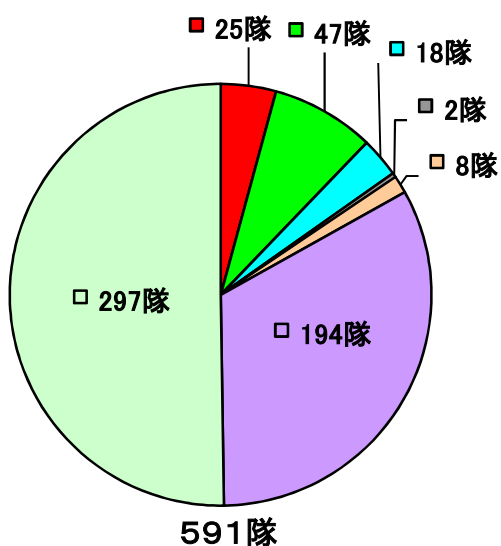
令和4年救助件数



令和3年救助件数



令和4年救助出動隊数



令和3年救助出動隊数

